

備後教区報

第 141 号

東日本大震災により被災された皆さまに
謹んでお見舞い申し上げます。

本山にて「東日本大震災義援金」の受付窓口が開設
されています。

郵便振替 01000-4-69957

加入者名 たすけあい募金

※通信欄に「東日本大震災」とご記入ください。

CONTENT

◆新年度にあたって

◆視点 台湾僧侶に聞く

◆備後学僧逸伝⑤

◆坊守探訪 三次組 専正寺

◆NEWS&活動情報

◆予報・インフォメーション



親鸞聖人750回大遠忌法要スタート

新年度にあたって

備後教区教務所長

宮川 宏生

新年度にあたり一言ご挨拶を申しあげます。

3月11日発生した東北地方太平洋沖大震災では、多くのいのちが失われ、広い範囲で甚大な被害が出ております。ここに亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表しますと伴に、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。備後教区では、できる限りの支援をしてまいりますので、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

本山では、4月9日から「親鸞聖人750回大遠忌法要」をお迎えいたしますが、聖人が願われた「世のなか安穩なれ」のお心を体し、被災された全ての方々の悲しみに寄り添い、その思いをわかちあつて厳修されます。

ご法要には国内外から30万人を超える方々が参拝されますが、備後教区からの団体参拝は、現時点で23団体6、156名の方が参拝を予定いたしております。50年に

一度のご勝縁を機に、聖人のご遺徳を偲ばせていただくとともに、浄土真宗のみ教えを深く味わいたいものであります。

このたびの大遠忌では、3期12カ年に亘る宗門長期振興計画が策定され「新たな始まり」～明日の宗門の基盤づくり～をコンセプトに、浄土真宗のみ教えが、現代人の心の灯火となっていくための様々な取り組みが展開されております。

今日、世の中が大きく移り変わる中で、他を顧みない自己中心的な考えが色濃くなつて、こころの荒廃が進み、いのちの尊厳にかかると多くの課題が山積してきています。このような時代にあつて、このたびの大遠忌がご法要の修行に終ることなく、振興計画の諸事業の一つ一つを確かなものとしていくことが求められています。

また本年度は基幹運動が6年計画の最終年度となります。振興計画の内容をふまえ、教区基幹運動をより効果的に推進していくため、これまで6カ年の点検を行ない、次のステップに向けて、鋭意取り組んでまいりますので、一層のご指導とご協力を賜りますようお願いいたします。

う、宜しくお願いを申しあげます。



3月14日付で教区会議長の就退任がありましたので、新旧議長よりご挨拶をいただきました。

教区会議長就任挨拶

奥組浄福寺 山下義円

紙面をおかりして就任の挨拶を申しあげます。まずもつて、東日本大震災で被害を受けられた方々に対して心よりお見舞いを申しあげます。教区としても災害支援に向けて、万全を期して参りたいと考えておりますので皆様方のご協力をお願い致します。

さて、本山では「親鸞聖人750回大遠忌法要」がいよいよ4月9日よりご修行になります。また、教区においても、組の再編など様々な問題を抱えた重要な時期を迎えております。

そういった大切な時節に際し、責務の重大さをあらためて痛感い

たしておりますが、教区内寺院、門信徒皆様方のご協力を仰ぎながら教区運営に精一杯の力を尽くしていく所存でございます。何卒皆様方のご支援、ご鞭撻の程をお願い申しあげ、略儀ながら就任の挨拶とさせていただきます。

教区会議長退任挨拶

深津組専光寺 藤井徳行

平成15年より2期にわたつて教区会議長を務めさせていただき、このたび1年を残して退任することとなりました。8年の間には、親鸞聖人750回大遠忌法要へ向けて様々な宗門の改革やお待ち受けるの行事がありました。無事法要の年を迎えることができました。ここに就任以来今日までお寄せいただいた皆様方からの格別なるお力添えに対し衷心より御礼申し上げます。ひきつづき、法要の円成に向け、また宗門のさらなる発展に微力を尽くす所存でありますので、今後とも倍旧のご指導を賜りますようお願い申し上げます。



台湾出身で本願寺派の僧籍をもつ

しゃくずいかく
釈瑞覚さん

昨年の12月、府中市内6ヶ寺の報恩講法要に台湾の女性僧侶・釈瑞覚さんが出講された。高校の時にお母さんが亡くなり、命のはかなさを知り、また、「お母さんが良い所に生まれてほしい」の一心で出家をする。しかし、修行を重ねても断ち切ることでできない煩惱の深さに苦悩する。ある人の支援により日本の大学で仏教を学ぶこととなった。台湾での苦悩、来日し、浄土真宗に出遇った喜びを語ってくれた。最終日の明浄寺(立神義昭住職)を訪ねた。(文責・教区報専門委)

ルポ

「生死出づべき道」を求めて

苦悩の末たどりついた阿弥陀さまのお慈悲

命がけの聴聞

Q 日本の法座の印象は？

A 法座の休憩が多く、時間が短いですね。台湾、中国ではよく質問されるので、長く時間がかかります。普段、浄土真宗の教えを聞くことが出来ないの、私や私の先生がいる間は、毎日、次から次へとお同行さんが来ます。雨の

日でも夜でも来ます。法を聞きたいという強い思いを感じます。

でも、日本ではいつでも聞けるという思いがあるのか、少し雰囲気が違うように感じます。特に中国では集まることが禁じられているので命がけですね。私も捕まえられるという覚悟で行きます。法を説く側も聞く側も命がけです。緊張感があります。それと年が違いますね。向こうは若い人が多いです。

断ち切れない煩惱に苦悩

Q 来日した理由は？

A 「生死出づべき道」を求めてということ。最初は、亡くなった母が良い所に生まれ変わる事ができるようにという思いで仏門に入りました。台湾の仏教は禅宗と浄土宗が合併したような感じ。座禅も組む。お念仏も称える、そういう修行ですね。向こうでは浄土真宗と違って煩

悩を断じるんです。すべての行は煩惱を断じるための修行です。しかしいくら修行しても、断ち切れる希望が見えませんでした。むしろ修行をすればするほど煩惱が増えてくるという事実直面させられることが大きな悩みでした。

「煩惱が断ち切れないこの私が救われる教えに導いて下さい」「この煩惱を断ち切れない私が救われる教えがないのなら、この私を早く死なせてください」と願っていました。

ある日、会ったことのない1人の念仏者が、私の住んでいるお寺に来られ、私に勉強するように勧めてくださいました。学費まで用意してくださり、その学費をもつて日本へ来ました。

けれども日本に来て私に助かる教えがどこにあるかもわからず、「仏教」の名前が付いている大学を探し、仏教大学へ行きまして。それが浄土宗の大学ということとは知りませんでした。いざ入学してみると、私が台湾で学んだものに近い講義でした。悩みは解決できませんでした。

縁が熟して

Q 浄土真宗の出会いとは？

A 浄土真宗の教えはすばらしいですが、すばらしさが難しいです。縁が熟さないと慈悲と受け止められません。

大学2回生のときに、すでに友人から御文章の言葉を聞かされていました。その時は縁が熟していませんでしたが、それが、慈悲と受け止めることが出来ませんでした。「修行」の一つもせずに、阿弥陀仏を信じるだけで助かることは、そんな甘い事があるかという思いでした。

大学4年を卒業して、大学院に上がった年に、1993年に、学校の健康診断で「あなたは結核です。すぐに学校を辞めて入院しなさい」と言われました。

薬をもらって飲みましたが、その薬がとてもしつこく、毎日夢を見るようになりまして。夢の中では、私が人を殺したり、人の物を盗んだり悪い事をするんです。悪い夢を見ることによって、地獄へ落ちるという恐怖に襲われました。恐怖だけではなく、孤独が襲ってきます。友達にも会えない、大家さんからも申し訳ないが部屋を出てほしいと言われました。

毎日が不安でした。その時に、以前、浄土真宗のみ教えを教えてくれた友人に電話をしました。この苦しさを誰かに聞いてほしかった。その時に、前にも言ってくれた言葉を言ってくれました。「一心一向に弥陀に帰命したてまつるべしと：」「阿弥陀さまは決してあなたを捨てないのよ」という言葉が、電話を通じて、その気持ちが伝わった時に涙が出ました。その時、ただその言葉だけで心が落ち着きました。

その時に初めて私が求めている教えが浄土真宗であると知らされました。その後、結核は誤診でしたと知らせが来ました。でも、私には無駄ではありませんでした。復学しなさいと言われました

が、そのまま龍谷大学に聴講生として行き、試験を受けて正式に龍谷大学に入り得度をしました。

阿弥陀さまに抱かれて

Q 難しいと思われたことは？

A 一番分からなかったのが、悪人正機です。生活を通して自分が悪人である姿が見せられるんですね。そうすると聞法しかないですよ。

どうしても浄土に生みたいと思っていましたので、いつも意識して南無阿弥陀仏を称えていました。念仏をしている最中に、自転車とぶつかりそうになり、「バカヤロー」という言葉が出たんです。僧侶である私が、慈悲で接することが当たり前なのに、人をのしる言葉が出ることは、何年も修行をしてきた私にはとてもショックでした。

それと難しいのは、教えを伝える人がいないことです。自分で本を読んで考えて理解できるものではないので、伝える人がいないということが、難しいですね。台湾では、もう阿弥陀様に抱かれているということを教えてくださる人はいませんでした。

Q 台湾の宗教事情について

A 台湾は「道教」ですね。台湾は良く言えば信仰心が強いですが。悪く言えば迷信が多いです。私が住んでる高雄にも、道教のお堂がたくさんあります。道教の教えが根強いんです。

道教で満足出来ない人が仏教にきます。キリスト教もありますが、でも、仏教が主流ですね。伝統的な仏教で満足できない人は、今は、日本からも創価学会も入ってきて来て日蓮宗も入ってきています。

Q 今後の活動は？

A 毎日、浄土真宗の教えを中国語に訳しています。稲垣先生の『教行信証』を訳しています。それから、『御和讃』『歎異抄』も訳したいです。力のある限りやって行きたいです。

取材を終えて

釈瑞寛さんの言葉に改めて「求道」ということを考えさせられる取材でした。

「好きな言葉は何ですか」と尋ねると、少し考えて「み親ですね」と答えられた時のほにかみながらの笑顔が印象に残った。

Close-Up-Bingo

▲第22世門主
大谷 光瑞師▲堀賢雄(左)と
渡辺哲信(右)

百年前、本山の白書院においてインド仏教美術、インド風景写真等の展覧が行われ、能が催されたという。さぞや当時の人々はその光景に見入った事であろう。

4月からは大遠忌が修行され、龍谷ミュージアムも開館されるにあたり大谷探検隊に参加した備後の学僧・渡辺哲信を紹介したい。(敬称略。文責＝教区報専門委)

わたなべ てっしん
渡辺 哲信
(1874～1957)

備後学僧逸伝

(其の五)

【大谷探検隊の概要】

19世紀末から20世紀初めにかけて中央アジアが一際、世界各国の注目を集めた時代であった。この時代、地球上の幾つかの未踏査地域(北極や南極など)が次々に征服されたが、アジアは未調査地域が多く、しかも古来有名なシルクロード周辺で多くの遺跡が発見されて「考古学的資料の宝庫である」と各国の探検家が次々とアジア調査に乗り出した。

西本願寺第22世門主となられた大谷光瑞は発掘遺跡のほとんどが仏教遺跡である事に強い衝撃を受けて「西域こそ仏教興隆・三宝弘通せる地域であり、殊に新疆はインドと中国の通路にあたり仏法東漸の重要な地域である。これらの流砂に埋もれた仏教遺跡を探検して古代の經典を収集するのは欧州のキリスト教徒ではなく、アジア人の仏教徒の手で行わなければならない」と確信するに至った。

こうして明治35年から3次にわたる西域・新疆地方やアジア全域にわたる探検調査が行われた。

わが備後からは渡辺哲信と哲乗、足利瑞義の3名が関わっている。

足利義山や高楠順次郎の影響を受けて育った

【三原浄念寺と神辺勝願寺】

渡辺哲信は明治7年¹⁸⁷⁴に浄念寺⁽¹⁾に生まれた。神仏分離令は生まれ育った故郷三原にも影響を与え、従来は仏式の葬儀であったものが家の中では仏式の葬儀・外は神道の葬儀と変わり、寺院のない地域も明治から出来るほどであった。

三原のある神主が親鸞を冒瀆する事件が起こった際には父・渡辺聞信は神辺勝願寺⁽²⁾の足利義山らと謀って尾道裁判所に提訴している。

母は夫・聞信が亡くなってから長女の婿・俊哲に寺務を任せて長男哲信は学問をさせるため文学寮⁽³⁾に入学させた。この同年¹⁸⁹⁰、義山は備後から京都の内学院教授に転勤し光瑞の学事係、翌年¹⁸⁹¹には勧学を拝命しているが、勝願寺と父の代からの深い縁があったことも少なからぬ影響を与えたのであろう。

余談だが、この俊哲の娘が童謡詩人の武内俊子⁽⁴⁾である。哲信の妹ヤエは足利瑞義⁽⁵⁾に嫁いでいるが、この伯父がハワイに旅立つときに見送りにきた俊子は波止場に飛び交うカモメを見て浮かんた歌が「カモメの水兵さん」であるという。

【郷土の先輩 高楠順次郎】

哲信の通った三原小学校の初代校長と高楠(逸伝⁽⁴⁾)が学んだ桜南舎の長谷川恭平は同一人物であり、また聞信と義山のように義山長男の義淵と協力して仏教排撃に対抗、哲信も入学した文学寮の「反省会」の設立にも関わった。こういった経緯もあり、高楠を郷土の先輩として強く意識していたようだ。

大正13年¹⁹²⁴に高楠が女子高等学校(現在の武蔵野大学)の設立基金を大谷光明・尊由をはじめ、多くの人々の助力を仰いでいるが、その中に哲信の名前も含まれる。

【文学寮における哲信】

一説に高楠は日本人としては最初にテニスを始めた人達の一人であるというが、哲信もテニスに熱心で文学寮で選手を務めた。又、文学寮は嘉納治五郎の講道館柔道を採用していたが、哲信は柔術の心得もあったようだ。

光瑞は文学寮や反省会など支援して若い青年僧侶とも積極的に関わっていたが、文学寮の大運動会が催されたときに大勢の中でこのような哲信の優れた運動ぶりが目に止まったのが縁となつて光瑞の側近になったという。

【聖地巡礼とロシア留学】

明治29年¹⁸⁹⁶、光瑞は日清戦争後には日露関係が複雑になるだろうとの判断をして、側近の哲信と瑞義の二人を旧ロシアに派遣した。

往路には印度や中東を経由しているが、最初に赴いたインドでは仏跡巡礼し、ブッダガヤに参拝した折には国より携えてきた父・聞信の遺骨を菩提樹の傍に埋葬した。

パレスチナではユダヤ、キリスト、イスラムの聖地エルサレムに赴き、巡礼者が辿るような行程で詳細な記録を書いている⁽⁷⁾。また、死海の岸部に立った最初の日本人であろうと推測される。ロシアの首都・ペテルブルクに留学、主に国の実情や言語を研究し、外交上の手続きやチベット附近の地理に詳しい探検家に現地事情を調査した。この頃、日本大使館で哲信と瑞義は徳富蘇峰⁽⁸⁾に出会った。

徳富は「何の用あつて本願寺はかくのごとき少年子弟を派遣したのかといふかったが、後において大谷光瑞師の志趣のいかに遠大なるかを知ることが得た。偶々この頃、渡辺哲信君とあいみて40年前の当時から感じ感慨に耐えざるものがあった」と後に語っている。



▲クムトラ千仏洞(探検隊撮影)
哲信はここで韋堤希夫人を描いた壁画を発見した

【英国留学と光瑞の補佐】

明治30年¹⁸⁹⁷、ロンドン経由で帰国。

同年に弟の哲乗⁽⁹⁾は文学寮卒業。

32年¹⁸⁹⁹、光瑞のインド仏跡巡拝と欧州への長期視察に哲信が随行したときには哲乗は任地廈門にいたが香港に赴いて光瑞を奉送した。

光瑞は国家の前途と宗教の将来について深く考えて、ロンドンを起点に調査旅行や欧州の東洋学者と会見など精力的に各国を歴訪していくが、欧州滞在時の庶務は哲信が担当した⁽¹⁰⁾。自らも留学し、英国宗教制度や欧州各地の歴史地理を研究。イギリス国教会の牧師とともに教会の歴史について学習、ネストリウス派にも特別の注意を払っていると『ロンドンタイムズ』で評価され、更に中央アジア探検で王立地理学会ゴールドメダルを受けたH・H・P・デージーより詳しいコーチを受けている。

【第一次探検隊の出発】

明治35年¹⁹⁰²8月、光瑞は英国から帰国途上に西域を探検するため渡辺哲信、堀賢雄、本多惠隆、井上弘円⁽¹¹⁾を伴って出発した。同年に日英同盟が成立し、本願寺新門・伯爵・英国王立地理学協会会員という肩書をもつ光瑞の探検に英国政府はインド政庁を通し特別の援助を与えてくれた。ロンドンからベルリンを経てロシアに入りカスピ海を渡って露領トルキスタンへ上陸。

ここでキャラバンを編成し、カシユガル・ヤルガンドを経て、パミール⁽¹²⁾のタシユクルガンに着いた。

仏教伝来した古代シルクロードの往時を辿ってインドに向かうのが当初の予定であったが、冬季である事と日本の状況を鑑みて、直接インドへ向かう光瑞の組と、新疆に留まり調査する組に隊を二分することを哲信が進言、自らは堀とこの地に留まることにした。



▶将来品のクムトラ出土の菩薩頭(上)とホータン出土の唐銅製仏頭(下)

光瑞一行と別れた哲信・堀賢雄は調査に従事し、ホータン⁽¹³⁾を経て更にタクラマカン砂漠⁽¹⁴⁾を22日かけて縦断している。この間の気温はマイナス30度を下り、ヘディン⁽¹⁵⁾の探検においても次々と隊員が倒れて遂に横断旅行を断念したというアジアで最も困難な行程であったが「ヨーロッパ人がそんな冒険をしているのに日本人たるものが何を尻ごみすることがある」と哲信は勝をかためたという。

法顕⁽¹⁶⁾が「砂漠の旅は大変につらく、その苦しみはこの人の世の他に比べるものとしてない」と評された道であり、「東に戻って生き長らえるよりも西に進んで死のうではないか」と述べた玄奘⁽¹⁷⁾の『大唐西域記』を携えて、日本人初のタクラマカン砂漠縦断を成し遂げた。



▲哲信はヘディンの従者であったカシムを雇って旅をした。

哲信と堀はクチャ⁽¹⁸⁾に四ヶ月間滞在した。理由は「旧中国領トルキスタンに有名な古跡地が3ヶ所

【クチャを重視した理由】



第一次大谷探検隊で
哲信が探検し辿った道

36年¹⁹⁰³8月10日、クムトラやキジルの千仏洞⁽²²⁾発掘などの成果をあげたクチャ出発にあたり哲信と堀は近隣の人々の親切を謝して飯をふるまい別れの宴を催したという。

4年後¹⁹⁰⁷に世紀の大発見をされた敦煌⁽²³⁾は哲信達の帰路1週間の回り道にあるため行程に含まなかったが、「自分共が第1着の機会を有しながら之を逃した事は誠に千古の遺憾である」と感想を述べている。

なお、哲乗はビルマを経てラングーンでは明如遷化の報を受けて



▲哲信が探検隊で将来したホータン出土の共命鳥

玄奘三蔵や仏教東漸の道を辿った最初の日本人

インドより帰国途上の光瑞一行を迎えた後、雲南から蘭州に向かつて単独で10カ月滞在、咸陽で哲信と堀に再会。玄奘が経典を持ち帰られた西安まで到達した後、哲乗・堀と別れた哲信は仏教が日本に伝わったように旅を続けて帰国した。

その後、哲信は『中央公論』の探検記に所感を述べて、仏教・イスラム・キリストの三宗教が集中し重層化した中央アジアの研究を促し、欧州の学者の研究が進みつつある状況⁽²⁴⁾で漢訳の大蔵経だけによる仏教理解の後進性を説いた。光瑞がそうであったように「国家の前途と宗教の将来」を憂いて活動した学僧であったようだ。



▲イスラム教徒によって顔を削却されたキジル千仏洞の壁画（第一次隊撮影）

【語句説明】

- (1) 浄念寺：御調西組。林順三住職。
- (2) 哲信・哲乗の兄弟が探検隊に参加した。
- (3) 勝願寺：鴨川組。現住職・足利義信師。
- (4) 文学寮：大学林は考究院・内学院の二院と普通教校を吸収し継承された形の文学寮から構成された。
- (5) 武内俊子：武内邦次郎と結婚。昭和4年頃から文筆活動。他の歌に「赤い帽子白い帽子」「リンゴのヒトリゴト」等。
- (6) 足利瑞義：元は足利義蔵というが光瑞の一字を貰い瑞義と名乗った。勸学。
- (7) 日野義淵、甲斐和里子は兄弟にあたる。
- (8) 反省会：光瑞の支援を受けて『反省会雑誌』の経費は本願寺より支出、その編集作業も大谷家私邸の錦華殿でなされたという。また、探検隊員は文学寮の卒業生や教授が関係者が多い。
- (9) 日本人がエルサレムの地を踏んだのは記録上、三番目に古い。他の二人は赤松連城と17世紀の豊後国宣教師。
- (10) 徳富蘇峰：雑誌『国民の友』や『国民新聞』を発刊した言論界の重鎮。
- (11) 光瑞の青年時代からの良き理解者。
- (12) 渡辺哲乗：哲信の弟。文学寮卒で第一次探検隊を雲南ルートに参加。現地の言葉で早くのふ込み現地人との交渉が上手で重宝がられたという。
- (13) 光瑞関係の欧州留学生が探検隊で中心的役割を担う事となるが、その学僧たちとの連携やロンドンにおける連絡役も哲信が担当した。
- (14) 第一次探検隊はロンドン発のパミール組だけでなく、インド先発の藤井宣正、園田宗恵、日野尊宝、上原芳太郎、島地大等、升巴陸竜、秋山祐頼、清水黙爾の隊。ミャンマーから雲南ルートに渡り哲乗、吉見円蔵、前田徳水、野村礼讓、茂野純一が調査活動に従事した。
- (15) パミール：タジキスタン・アフガニスタン・中国に跨る「葱嶺」「世界の屋根」と呼ばれる標高平均5千メートルの高原。

【探検後にも世界各地へ】

37年¹⁹⁰⁴5月に帰国後、本山臨時部・日露戦争の軍隊布教員となった哲信は同年9月、中国東北部(旧満州)の布教使総監督・大谷尊重⁽²⁵⁾の随員として広島別院を経て戦地の遼陽に赴いた。11月に北京で哲乗や堀と再会、上原芳太郎と共に亀井陸良⁽²⁶⁾らと交流している。39年¹⁹⁰⁶、光瑞夫妻の樺太巡化には尊重、哲信、哲乗も随行。戦後の教線拡張の必要性を痛感した光瑞夫妻は更に清国視察に出発。このときは哲信、哲乗に加えて甲斐和里子⁽²⁷⁾も随行した。

40年¹⁹⁰⁷、尊重が英国留学に渡欧するにあたり再び随行した。それから約一年半、尊重と共にアフリカ踏査・インド巡拝を経て、英国に戻った後も北米に出発、西海岸巡視の途中、サンフランシスコまで行動を共にした。同年¹⁹⁰⁹、光瑞夫妻の欧州旅行の際には再渡英して裏方の大谷壽子と九条武子⁽²⁸⁾に随行して案内した。この時、二人は光瑞が英国滞在時に行かれたように欧州の孤児院や感化院を積極的に視察し、英国のジョン・ミルンの地震研究所にも訪れている。

【ジョン・ミルンと本願寺】

ジョン・ミルンは明治政府が日本近代化のために招聘した外国人教師の一人で、工学寮や帝国大学で地質学や鉱山学を教授。函館の貝塚を発掘したり、

日本地震学の基礎を作った。

本願寺派寺院の娘トネと結婚。明治17年には赤松連城と対談し、20年の『反省会雑誌』創刊号にも寄稿している。

日本地震学会を創設し、新規の地震計を発明し、明治24年¹⁸⁹¹に起こった日本史上最大の直下型地震である「濃尾地震」の詳細な記録を残した。このとき光瑞も危険を顧みず現地を慰問しているが、その影響もあるのだろう。

ミルン夫妻は英国に移り地震研究所を建てているが、同所に訪問した本願寺関係者は多い。



▲英国のジョン・ミルン地震研究所にて1902年5月3日撮影。右から順に光瑞、ミルン夫妻、哲信、藤井宣正、井上弘門。

【新聞社の経営に携わる】

帰国後、築地本願寺輪番を数年務めたが多額の負債をかかえた疑獄事件で光瑞に伴い辞職。その後は亀井陸良の薦めで『報知新聞』⁽²⁹⁾の北京特派員となり、英、露、中国、トルコの各国に

通じる語学力や識見で活躍。後に『順

天時報』⁽³⁰⁾社長となり中国での各国の政治活動の渦中で日本の外交政策を助け手腕を発揮した。昭和五年¹⁹³⁰、弟の哲乗が須磨で亡くなると帰国。東京で悠々自適の日々を送っていたが、昭和18年¹⁹⁴³に娘婿・貫之が徴兵(後に戦死)されて帰山。晩年を浄念寺住職として過ごした。吉田茂首相とは友人で三原を通過する際に連絡があり、家族の者が驚いたという。昭和32年¹⁹⁵⁷3月17日、84歳にて示寂。葬儀の際には本願寺から多くの方が来られたという。光瑞の活動に深く関わっていたからであろう。贈られた号は瑞香院であつた。

【語句説明】

- (13) ホータン：崑崙の玉と称された白玉の産地。古代の王国名は「干闥国」。
- (14) タク라마カン砂漠：ウイグル語の意味は「生きて戻れぬ死の砂漠」という。
- (15) ヘーデン：スウェーデンの探検家。
- (16) 光瑞の英国滞在中に第二次中央アジア探検をして成果をあげた。後に哲信は彼の護照を得るため清国と交渉した。
- (17) 法顯：337-422。長安から印度へ向かい、ホータンを経由して王舎城など仏跡を巡り、セイロン(スリランカ)にも寄っている。『法顯伝』で知られる。
- (18) 玄奘：602-664。仏跡巡礼を志し天山北路でインドに至り、經典を多数翻訳した。長年の旅を記した『大唐西域記』は、西遊記のモデルにもなった。
- (19) クチャ：古くは「龜慈国」といった。阿弥陀経や法華経を訳した鳩摩羅什や仏図澄の出身地である。

- (19) スタイン：英国の探検家。玄奘帰途の西域南道に沿って探検。数多くの寺院址や仏塔、古文書などを発見した。
- (20) トルファン：天山山脈の南に位置する盆地で古くから交通の要所であった。第二次大谷探検隊が調査した。
- (21) グリュン：ドイツの博士。彼の調査隊とは庫車の手前で哲信も出会った。
- (22) 千仏洞：崖に蜂の巣のように無数の穴があり、多いところでは二三百の洞窟内に仏跡があるため、この名がついた。哲信たちが調査したキジル千仏洞は新疆でも一番の大きさの石窟寺院で第一次隊で最も重要な成果をあげた。
- (23) 敦煌：莫高窟の遺跡から出た大量の古文書群で有名。1900年に発見され、1907年にスタインに発掘されるまで放置されていた。それを伝聞したペリオや清国に発掘された後、第三次隊が到着した。
- (24) イギリスは南方仏教の一切経を出版、ロシアは大乗一切経の梵語原本を出版するなど仏典研究が盛んであった。
- (25) 大谷尊重：後の大谷光明。光瑞の弟。23世門主勝如の父。哲信は尊重と共に戦地やアフリカ・北米を調査した。
- (26) 亀井陸良：明治大正の国士的新聞人。特派で北京滞在中に哲信や本願寺関係者と親交を結ぶ。光瑞と水野梅暁を引き合わせるために尽力したという。
- (27) 甲斐和里子：足利義山の娘。瑞義の姉。裏方や武子の女子大学趣意書の後に、京都女子高等学校を創設した。
- (28) 九条武子：光瑞の妹。九条良致と結婚。裏方を助けて仏教婦人会を創設。
- (29) 大正12年の関東大震災の際には負傷者や孤児の救援活動に尽力した。
- (30) 報知新聞：明治末から大正にかけての有力紙の一つ。後にスポーツ紙になる。
- (31) 順天時報：北京で発行された漢字新聞で当時清国は政治関係は一切発行禁止されていたので、日本外務省に支援されながら経営したという。

三次組 専正寺
ふかみず みき
深水 美樹 坊守

坊守探訪

VOL.31

助けが必要な人に 手をさしのげる場がお寺

今回お訪ねしたのは、三次組・専正寺の深水美樹坊守さんです。厳しかった冬の寒さも少しだけゆるみ、春の気配を感じられるような暖かい日差しの中、ナビゲーションに導かれるまま進んでいくと、前方の畑の中にお寺の屋根が見えてきました。お寺にお邪魔すると、古民家再生の設計士さんの手で改修が成されたばかりという会館で、坊守さんと住職さんにも参加いただきお話を伺いました。(聞き手〓立神多恵香委員、長裕美委員、写真〓山下瑞円)



Q よろしくお願ひします。改修されたばかりという事ですが、素敵にできあがっていますね。

A 皆さんのお陰です。慶讃法要の写真を見て下さい。

Q 新門様がおいでになられたんですか。

A そうなんです。新門様にお越し頂いて感激しました。私たち一人ひとりにお心配りくださる姿に、仏婦の皆さんはもちろん、普段はお寺に参られない方も大ファンになってしまいました。

Q では、坊守さんの事をお伺いしますが、どのようなご縁でこちらに来られましたか。

A 私は福岡の出身で、住職とは福岡の大学の「映画研究部」というサークルで出会いました。その後、住職は大学院へ進み、私は子ども病院で看護師をしていました。そこで毎日病気の子どもとの出会いと別れを繰り返している時、世間はオウム真理教の事件で大変な事になっていて、住職に「宗

教ってなに」と相談をしたのがきっかけで、気づいたらここに来ていました。実家も浄土真宗の門徒で、祖母がよくお寺へお参りしていて「お寺の人はいい人だ」と言っていたので抵抗は無かったですが、一番喜んだ反面心配してくれたのも祖母でした。

Q そうですか。こちらに来られてどうですか。

A よく人に「嘘でしょ」と言われますが、毎日が楽しいですね。

Q 何が楽しいですか。

A いろんな人といろんな話しができるのが楽しいですね。前坊守が早く亡くなったので若いときから皆さんが助けてくれて、みんなが自分の育てた子どもの様に思ってくれているので、失敗しても大目に見てくれるし、こちらも遠慮せずお願い出来ることはお願いするように心がけています。

Q なかにはそういう事が、かえって苦痛に感じられる方も沢山いらっしゃると思いますが、坊守さんのその大らかさはどこから来るのでしょうか。

A うちが90才と94才になる祖母と大叔父と、父と、私たち夫婦と、子ども2人の7人家族でみんな

な仲が良いんです。というのも、結婚して3年くらいで前坊守が病気になるって、その後2年位の闘病生活を経て亡くなったんですが、看病を通して家族の絆が出来たような気がします。

前坊守は元気な時から何処へでも私を連れて行ってくれたし、何でも一緒にしてくれました。そのお陰でみんなに覚えてもらいう事が出来ました。たった5、6年しか一緒に居られなかったけど、自身の濃い時をすごさせてもらった気がします。

前坊守は亡くなる直前「専正寺をよろしく願います」とビデオメッセージを残してくれたのですが、それが私には「まだまだ美樹ちゃんダメだから、皆さんよろしく願います」と言ってくれたような気がして、よし頑張るぞ。と思いました。いまでもあちこちで母の声が聞こえるような気がします。

Q そうですか。悲しいけれど、ギョツと凝縮された時間をみんなが支え合って過ごされたから今の皆さんがあるのでしょうか。では次に、お寺の活動について教えてください。



▲深水眞住職と

A 主催は仏壮や婦人会と、いろいろありますが、年13、14回の法座があります。その中には本山参りや、初参式、バーベキュー等多いときには月2、3回の行事があります。

A うちではそういう月を法座強化月間と呼んでいます。(住職談)

A 法座の時は毎回お齋を出していて、カレーにナンとか、グラタンとか日頃おじいちゃん、おばあちゃん2人暮らしの家庭では食べられない物を出そうと思って作っています。その他に、このあたりには、昔亡くなった方の台帳を消したこと付いた名前だと思いますが初七日の頃「帳消し参り」というのがあって、その時はお寺で精進料理をお出しする、と

沢山の行事をご縁として

いう風習が残っています。それはちよつと大変ですね。あとは、最近では年に一度何かのイベントをするようにしています。

Q そんなに沢山の行事がある上にどんなイベントをされるんですか。

A 本堂でコンサートをしたり、書展の会場に使ってもらったり、狂言をしたり。それが縁で子どもの狂言教室も場所を変えて徐々に形になりつつあります。

Q 狂言ですか。珍しいですね。

A もとは、神楽に対抗して何か出来ないか。と考えたのが始まりです。

Q この辺に狂言の先生がいらっしゃるのですか。



A いえいえ、呼んでくるんです。本願寺でも祝賀能の時などに呼ばれている「茂山千五郎」さんの楽屋に突然押しかけて、「今度来て」「いいよ」で来てもらいました。その次からは勝手にお友達です。(住職談)

Q えーっ、そんな大胆な。すごい行動力ですね。実際はそんなに簡単なことでは無かったのでしょうか。けど、三次に来て下さって地域にとつても良いご縁が出来ましたね。まだまだ聞きたいことは沢山ありますが、最後にこれからの抱負を教えてください。

A 私は以前看護師をしているときに、医療で病氣は治すことは出来ても、それ以外の精神的な支えは何も出来なかったと言う思いがあつて、そういうときにキリスト教の牧師さんは病院に入つてこられるのに、お寺の方は見たことが無かったんですね。本当はもつともつとお坊さんの出番はあるんじゃないかなと思っていたので、ビハラーという活動を知って、時々お手伝いをさせてもらつてい

るのですが、行ってみたらお年寄りの方が対象で、私の思っていたのと違ったんですね。

でも、坊守さんがここまで来てくれたと、とても喜んでくださり、私の方が元気づけられて帰って来ます。願わくば、子どもも家族も含めてもつというんな年代にむけての働きかけがあればいいのではと思うんです。助けが必要な人 hands をさしのべる場が佛寺であれば良いと思います。そして子ども達が大きくなつて地元を離れても、近くに来たからちよつと寄つてみようかと思える佛寺を目指しています。

Q それは素敵な目標ですね。大変だと思ひますが頑張つて下さい。今日はありがとうございます。

取材を終えて

「坊守のことは『専正寺の太陽』と呼んでいます」と話して下さった住職さん。言葉通りの明るい坊守さんに、もの凄く前向きな住職さんとの時間はあつという間に過ぎてしまい、あたたかい佛寺の雰囲気伝わってくるような楽しい一時を過ごさせていただきました。

た。大変な日常も「毎日楽しいことばかり」と話された坊守さんに教えられることの多い取材でした。

News & 活動情報

予算決まる

【教区会】去る3月14日、本願寺備後教堂にて定期教区会が召集された。このたびは平成23年度教区一般会計他5つの特別会計の予算、今年度の三つの予算更正が財務議案として上程され可決された。予算については別冊予算書を参照のこと。

快適な環境作りを目指して

【本願寺備後教堂】3月8日、本願寺備後教堂において教堂責任役員と総代会が開催された。

平成23年度の事業計画、各種会計予算、今年度の予算更正が審議され議決された。今年は大遠忌の年ということもあつて新館本堂の空調設備を始め、参拝者や利用者にとつてより快適な環境作りを目指すべく、修繕に向けて着手していく計画である。なお、教堂予算

については別冊予算書を参照のこと。

保護司・民生委員との連携を

【同朋部会】「保護司・民生委員との連携」を課題に基推事業の一環として進められていた計画が、このたび「つどい」という形ではじめて催された。

開催までに試行錯誤しながらも、まずは基推委員、保護司、民生委員の三者で抱える課題を共有し、学び合える場ということで企画された。つどい当日の1月24日には25名の参加者が集まり、勝岡勝也安芸教区保護司会長を招聘して、様々な課題や現在の取り組みなどについての話を聞いた。

今後、このつどいをどう展開していくかなどについては現在のところ未定ではあるが、何らかの形で深めていきたいと不二川同朋部担当委員は最後に語った。



教区月報

1月	8日	10日	11日	12日	17日	19日	20日	21日	22日	24日	25日	26日	27日	28日	31日	2月	1日	2日	3日	4日	5日	7日	9日			
宗務始め	岡山同宗連人権啓発講座	教堂常例法座	組画編成会議	各専門委員会合同会議	仏婦連盟常任委員会	三者懇専門委員会	特別布教大会	仏青中央委員会 (世羅組照明寺)	保護司民生委員のつどい (本山 23日まで)	基推同朋部会	寺族女性勉強会	基推常任委員会	青年布教使研修会	布教団役員会	キッズサンガ推進委員会	少年連盟役員会	ビハークラ研修協議会	同朋三者懇 (尾道)	法式法務専門委員会	組画常任委員会	基推門信徒部会	勤式練習会	門徒推進員定期研修会 (本山 6日まで)	自死を考える学習会	広島同宗連GATE上映会	F M専門委員会

身近なお話を

【**仏婦連盟**】 2月20日、備後教
区仏婦連盟（若婦人専門委員会）
が企画運営する「ほほえみ講座」
を開催。一人でも多く若いお母
さんにも聴聞してもらえよう
「キッズコーナー」を設置し、子
どもの世話には仏婦役員OBや常
任委員のかたにご協力いただい
た。

講師は山口教区の願生寺住職・山名真達師。テーマ「救われるということ」は、少々難しく聞こえるが、身近な話から阿弥陀さまと私の関係のお話をされた。

また、昼休憩には「焼香」の作法指導、歌の練習などを行い、質疑の時間には参加者からのアンケートに答えて講師が身近な仏事の話をした。参加者はスタツフあわせて大人100名、子ども15名であった。

若い方にお寺との繋がりを持つてもらいたいという本来の願いからすると、若い世代の参加がまだまだ少ないという現状であり、今後より充実した研修会となるよう若婦人専門委員ともども考えていく。

親鸞聖人の魅力とは

【広報伝道部会】 2月22日、「備後教区僧侶研修会」が備後教堂において開催された。

講師は大阪大学教授(文学博士)の平雅行先生。「親鸞のあゆみと中世民衆」について講義をいただいた。

講義の中で先生は、親鸞聖人の魅力として、当時の人々と共に悩み苦しみあえぐ、聖人ご自身の心の揺れであると語られ、当時の時代背景を中心に、多角的な視点から聖人のあゆみを考察された。

いよいよ「親鸞聖人750回大



遠忌法要」をお迎えするにあたり、宗祖のご苦勞を聞き、ご遺徳を偲ばせて頂く機縁となった実り多き研修会であった。

年齢制限がなくなった中央教修

【門信徒部会】 3月9日、組連研受講を終了した人を対象とした「連研履修者研修会」が備後教堂で行われた。

今年から中央教修の年齢制限がなくなったこともあってか、例年より多い約30人が参加した。

今回の研修テーマは「組連研をふりかえって」。講師は本山の荻隆宣・連研中央講師。

午前10時の開会式に続いて荻講師は組連研の受講前と後の思いを語り合って欲しいと提案。

このあと、本山での中央教修を終えた三次組西善寺門徒の岩崎昭行さんが感動的な体験を語り、中央教修の受講を勧めた。

午後からは班別になってそれぞれ
の連研での思いを語り合った。
最後に全体会を開催。荻講師が
連研をスタートとして門徒推進員
を目標して欲しいと結んだ。

16日	15日	14日	14日	12日	11日	11日	11日	10日	9日	8日					4日	3日	2日	3月	28日	28日	28日	25日	24日	23日	22日	22日	21日	20日	18日	14日	11日	11日	
ビハーク実践学習(花の里)	F M専門委員会	教区報専門委員会	教区会	仏壮連盟役員会	岡山同宗連総会	勤式練習会	教堂常例法座	基推全体会	連研履修者研修会	教堂責役総代会	(御調束組浄泉寺)				少年連盟子ども大会	ブロック教化連絡協議会	(安芸云 3日まで)		矯正教化支部研修会	F M専門小委員会	組相談員協議会	組相談員協議会(安芸)	布教団部門別・	ビハーク実践学習(藤江荘)	I T専門委員会	僧侶研修会	出張勤式練習会(備中里組)	法式法務専門委員会	ほほえみ講座	常備会	組画全体会	若婦人専門委員会	教堂常例法座

布教原点に立ち返り

【布教団】1月26日、備後教区布教団「青年布教使研修会」が行われた。本願寺派布教使・小林顕英先生（大阪教区 布教使課程専門講師）を迎えて、「法話に臨む心得」というテーマでご講義をいただいた。



研修では青年布教使が布教の原点に立ち返り、法話に臨む姿勢を具体的に直すことをうながした。講義の中で一つ一つの作法を丁寧に行うこと、常にご門徒方より聞かれている以上に見られていることを意識すること、聖典を頂くときの頂く位置、合掌礼拝の角度、輪袈裟の位置など常にふさわしい姿を布教使として心掛ける大切さを講義された。特に法話の内容としては「聴聞の心得」を通してお伝えをする布教使自身、初事である布教、自ら今生最後である布教、私のためのみ教えであると

いう布教を本当に心掛けて話しているだろうかという問いかけと、そのことを常に考えておく大切さを教えていただいた。

この度の研修を通して青年布教使は、布教伝道の原点に立ち返り、阿弥陀さまを尊び、ご門徒方を敬う姿勢を忘れないように心掛けていくことを学んだ。

布教使のあり方

【布教団】2月25日、部門別基幹運動研修会、総会が行われた。

はじめに前副団長であった迫田龍誠先生の追悼法要が行われ、山下義円副団長が代表焼香を行い、布教一筋の生き方で備後教区布教団を支えてこられた先生のご遺徳を偲んだ。午前中の部門別研修会では、那須英信副団長が「布教使のあり方」として、これまでの布教伝道を踏まえて取り組まれてきた具体例をお話いただいた。布教使としての姿は、伝えていくと同時に、自分が「聞く」こと、相手を「ほめる」こと、そしてこれまでの布教使の先生方との出遇いの中で一つのテーマをもって布教していくことを教えていただいた。午後からは季平恵海（鴨川組福

泉坊）先生に「同朋三者懇話会」のお話をいただいた。

教区内ニュース

【世羅組】教区内最後となる世羅組（島津恵心組長）お待ち受け法要が、4月3日（日）、照明寺（菅治隆住職）にて開催された。

当日は270名の稚児が華やかな装束を身にまとい、家族と共に800名に及ぶ稚児行列が行われた。稚児宿にはゲームやポニーに触れることのできるコーナーがあり、待ち時間を退屈にさせないように様々な工夫がされた。

午後からは宗祖讃仰作法（音楽法要）が勤修され、雅楽、エレクトーン、45名のコーラス隊とのコラボレーションは参拝者の方々に感動を与えた。

最後に桑原浄昭・安芸教区呉東組浄円寺住職よりご法話をいただいた。

参拝者の方は、「素晴らしいご縁にあわせて頂きました。京都へお参りするのが今から楽しみです」と語られた。

昨年10月には照光寺（脇本寿真住職）にて帰敬式が行われ、270名が受式した。



313029	232218
日 日 日	日 日 日
少年連盟子ども大会	仏婦連盟常任委員会
組長会	キッズサンガ推進委員会
備龍会ソフトボール大会	門徒推進員実習
	（ビハラの里）
（御調東組浄泉寺）	

今後の予定

4月

- 3日 世羅組お待ち受け法要
- 8日 勤式練習会
- 10日 仏壮総会・研修会
- 11日 教堂常例法座
- 19日 第8回サポーター連絡協議会
- 22日 保育連盟全体協議会
- 26日 仏婦連盟総会・幹部研修会
- 27日 少年連盟役員会
- 28日 寺婦連盟若婦人研修会
(御調東組照源寺)

5月

- 11日 教堂常例法座
- 13日 基推全体会

16日 世界仏教婦人会大会
(本願寺 17日まで)

19日 勤式練習会

25日 寺婦連盟役員会

6月

6日 同朋三者懇話会(備後)

7日 寺婦総会・研修会

9日 少年教化指導者のつどい
団体参加 (本山)

11日 教堂常例法座

17日 勤式練習会

20日 布教団総会・研修会

21日 夏期布教大会

29日 全国布教使大会団体参加
(本山)

勤式練習会

予報ーインフォメーション 研修会、行事案内

教堂参与の増員について
各寺院より1名以上の教堂参与をお願いいたしておりますが、現在58名と寂しい状態が続いております。備後教区の拠点となる間法道場の護持発展に何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。申込み詳細については教務所までご連絡下さい。



教堂常例法座出講者

(敬称略)

5月 平山義文

(深津組光榮寺)

6月 小武秀道

(三谿組正法寺)

7月 深水顕真

(三次組専正寺)

大遠忌法要後期(9月～11月)
団体参拝の奨励について
9月から11月にかけての団体参拝でのお申し込みについては、まだ余裕がございます。是非とも参拝奨励にご協力くださいますようお願いいたします。

懸垂幕
「大遠忌法要へ参拝しよう」
4月から始まる大遠忌法要参拝を促すため、懸垂幕の掲示内容を刷新した。
夜間に車のライトに反射して光る反射素材で作製している。



得度許可

おめでとうございます
ございます

〔敬称略〕

備中里組 慈恩寺

釋 潤子(光雲)

三谿組 浄圓寺

宮 祐介(祐浄)

三次組 西覚寺

伊川 純慶(純慶)

御調西組 順勝寺

田坂 礼人(礼人)
安坂 静登(寂静)

(平成22年9月15日付)

深津組 専光寺

石川 正直(正真)

鴨川北組 正明寺

渡邊 浄真(浄真)

(平成22年10月15日付)

芦田組 西福寺

永久 忠(英心)

三次組 明正寺

佐々木 桂子(桂珠)

(平成22年11月12日付)

教師授与

おめでとうございます
ございます

〔敬称略〕

芦田組 妙泉寺

箱田 尚美(妙華)

世羅組 照光寺

今石 清文(住諦)

(平成22年9月30日付)

鴨川北組

佐藤 秀信(秀信)

三次組 法正寺

宮武 直樹(常照)

(平成22年12月14日付)

敬 弔

お悔やみ申し
上げます

〔敬称略〕

鴨川北組 正明寺

前坊守 渡邊 三重子

(1月14日寂)

深津組 専光寺

前住職 藤井 恵祥

(1月26日寂)

沼隈西組 善性寺

前坊守 藤原 ミツエ

(2月1日寂)

御調西組 専福寺

坊 守 龍山 晶子

(2月7日寂)

世羅組 善正寺

住 職 薬師寺 秀昭

(3月12日寂)

沼隈西組 成願寺

前坊守 森本 美智子

(3月13日寂)

御調東組 浄泉寺

衆 徒 遊亀山 徳子

(3月18日寂)

三次組 善照寺

前住職 安部 大恵

(4月1日寂)

お見舞返礼

ありがとうございます
ございます

神石組 正善寺様

よりお見舞返礼を頂きました。

●在家免物の取り次ぎについて
教務所にて在家免物の取り次
ぎを行っています。本山からお
寺、ご門徒宅へ直接届くよう手
配をさせていただきます。教務
所(藤井)へお問い合わせくだ
さい。

新職員あいさつ

2月14日より教務所でお世話に
なっております轟 郁美(とどろ
き いくみ)と申します。何分不
慣れでご迷惑をおかけすること
もあるかと思いますが、お役に立
てるよう努めてまいりますので、
今後共ご指導ご鞭撻の程よろしく
お願い申し上げます。



とどろき 轟 郁美さん

人 事

一身上の都合により2月18日付で
平佐由梨が退職いたしました。

Radio BINGO
お坊さんステーション
FMびんご 77.7MHz
月曜日 午後6時5分頃
木曜日 午後6時10分頃

人はみな悩みや悲しみを 抱えて生きている



ビハラー備後活動報告

と(介護・グリーンフケアⅡ悲しみに寄り添う活動・認知症など)の学習、病院・老人介護施設での実践学習、傾聴ボランティアについての研修会を行っている。また、教区内のビハラー活動団体との連携をもとにして、施設での実践活動・グリーンフケアの会・子どもを対象とした「おもちゃサロン」など団体・グループ活動や、会員一人ひとりによる地域活動を展開している。

人はみな悩みや悲しみを抱えて生きている。施設や病院の利用者に限らず、高齢者・病弱な人は特に「人に頼らねばならない苛立ち・申し訳なさ・不安・孤独感」などを心の奥に押し込んで暮らしておられるが、それらは他人事ではない。すべての人が死に向かって歩む人生をゆつたりとした気持ちで過ごせるよう、阿弥陀様のお心をおたき親鸞聖人の教えを受けた私たちが働きかけていかなければならない。ビハラー活動にさらなるご協力をお願いしたい。

ビハラー備後は平成8年に結成した。結成に先立ち、教区ではビハラー活動についての研修を重ねる一方、教区内各地に自主的なビハラー活動団体が生まれ、病院や老人介護施設での活動が始まった。現在約90名の会員があり、年1回の公開講座で福祉に関するこ



NHKクロウズアップ現代で「岐路に立つお寺」問われる宗教の役割」が放送された。冒頭に浄土真宗教学研究センターが調査

した結果が紹介された。6割のお寺が20年後に不安を持つと答えた▽大手葬儀社による納骨堂経営では、購入者の葬儀は3割引き、戒名は無償とPRをする。もちろん葬儀社だけでは納骨堂の経営は法律上出来ない。檀家10件のお寺が提携して運営を行う。600年続いたお寺を護りたい思いからであろう▽葬儀社の社長は「顧客ニーズに基づく商品の提供である。消費者が喜ぶことはすべて善である。でも仏教側は自分たちの今の体制を、生活を守ることが大事ですから」と語る▽上田紀之東京工業大学准教授は、90パーセントの人が仏教に良いイメージを持っているが、お寺には25%、僧侶には15%しか良いイメージを持っていないという調査結果を紹介。その理由として「本来の仏教をやっていない。商品化されている。世襲で家業になってしまった」と指摘する▽しかし、先行きが不透明といわれる時代に仏教は底力を発揮すると、社会問題に取り組む僧侶を紹介する。そこには自然と人が集まってくる▽番組には、お寺、僧侶への期待感が込められていると感じた。(K)